報道関係各位

2026年6月8日
ショートショート実行委員会
ショートショート アジア実行委員会

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2026
バズより、震え。～縦型ホラーナイト～開催
ホラー＆サスペンス部門各テーマの“最恐賞”が決定

プロも唸った実話怪談・全編AI生成ホラーから実の心霊スポットでドローン撮影された作品まで、令和の特撮ヒロイン・平川結月×現代の鬼才・片山慎三×呪物蒐集家・はやせやすひろが縦型ショートフィルムの熱狂を語り尽くす。

米国アカデミー賞公認、アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア（SSFF & ASIA）2026」にて、6月7日（日）19:30-21:20「バズより、震え。～縦型ホラーナイト～」が開催されました。

株式会社CRG協賛のもと新設され、1月～4月まで国内公募した「ホラー＆サスペンス」部門にSNSを通じて集まった「最恐」の縦型ショート（30～180秒）は273作品。
イベントでは、応募作品の中でも優秀だった6作品の発表、そしてはやせやすひろさん（都市ボーイズ）、平川結月さん（俳優）、片山慎三さん（映画監督）、四宮隆史さん（株式会社CRG 代表取締役CEO）が各作品についての評価ポイントを話すとともに、怪談クロストークで盛り上がりました。

豪華ゲストによる「怪談クロストーク」で幕開け

イベントのオープニングでは、MCの諏訪慶氏による進行説明に続き 、本イベントを盛り上げる特別ゲスト陣が登壇 。
呪物・怪異蒐集家のはやせやすひろ氏、ホラー好きを公言する俳優の平川結月氏、映画『岬の兄弟』や『ガンニバル』、そして7月2日よりNetflixで公開を控える新作『ガス人間』を手がける片山慎三監督 、そして本プロジェクトのスポンサー、株式会社CRGの四宮隆史氏が揃い踏みしました 。
冒頭、片山監督の最新作『ガス人間』の予告編が上映されると 、ステージはさっそく「怪談クロストーク」へと突入 。はやせ氏が披露した実話怪談を皮切りに、ゲスト陣による臨場感あふれるトークが展開されました。

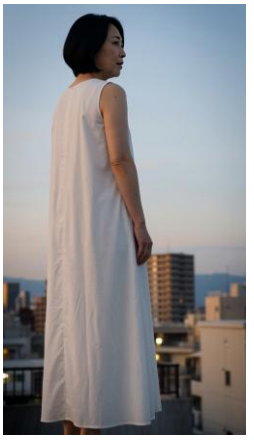
呪物・怪異蒐集家のはやせやすひろ氏から、自身のルーツでもある岡山にまつわる、友人の実話怪談が披露されました。
幼少期、祖父の葬儀で祖母が変な方向を向きながら「ごめんね」と謝り続けていた光景が頭から離れなかったという友人。大学生になり入院中の祖母を見舞うと、祖母は錯乱状態で再び謝罪を繰り返し、「お前の寿命をずっとおじいちゃんに移していた」と告白し、その後、近くの神社を訪れると、宮司から祖母が持ってきたというポチ袋を見せられたそうです。中に入っていたのは祖父の歯と自分のものと思われる髪の毛。実家で髪を切られた記憶がないことから、両親もこの儀式を知っていて髪の毛を祖母に渡していたのだと確信し、家族全員に寿命を奪われていた事実に恐怖した。そんな不気味なエピソードに、映画監督の片山慎三氏も「非常に興味深い。すごい映画が出来そうな話」とプロの視点から感嘆の声を漏らしました。

4つの月間テーマ「最恐賞」&「特別最恐賞」発表・上映

続いて、273作品の頂点に立つ各テーマの受賞作が発表され、ステージ上でトロフィーの授与とゲストによるクロストークが行われました 。

① 悪夢テーマ 最恐賞『妻と夫と』

選考に関わった四宮隆史氏は、「大スクリーンで見るとさらに怖い。短い中にもドラマ性が凝縮されている」と絶賛。片山監督も「夢の中から目覚めてもまた夢という『夢の中の夢』の構成が素晴らしい」と太鼓判を押しました。本作の大きな特徴として、監督から「登場人物の芝居やグラフィックは、自身の撮影した写真をベースにAIに演技をさせて生成した」という先進的な制作手法が明かされると、ステージは驚きに包まれました。平川結月氏は「無機質な感じが見ていてリアルで、AIだと気づかなかった」と語り、はやせ氏も「演技力が僕より上で驚いた」と会場の笑いを誘いました。さらに、はやせ氏から、劇中の「疲れてるのよ」というセリフが「（霊に）憑りつかれてるのよ、という意味も内包しているんですよね？」という考察に、監督は「今気付きました！」と自身も驚く場面もありました。



『妻と夫と』

② 恋テーマ 最恐賞『ありがとう、ね』

ワンカット撮影ならではの緊張感が持続する本作について、平川氏は「いつ何が来るのかとずっとドキドキハラハラして、観る人によって色々な捉え方ができるのが面白い」とコメント。片山氏も「幸せそうな音楽をあえて流すことで、後々起こる恐怖を予感させるゾワゾワした使い方が見事」と評価しました。乙木勇人監督から、本作の結末について「肝試しに行くのが夢だった彼女の霊が、最後にその夢を叶えて成仏した物語」であることが明かされると、はやせ氏は「運転中に彼が一度も彼女の方を見ていなかったり、窓に彼女の姿が映っていなかったりと、最初から細かい伏線が散りばめられていて、2回観ると泣けてくるような深い作り込み」と絶賛。また、監督から「普段ホラーを観ない自分だからこそ大切にできる感覚で作った。3分という縛りの中、夜中に十数テイクを重ねてワンカットで撮り切った」という過酷な舞台裏が語られ、クリエイターとしての熱量に惜しみない拍手が送られました。

『ありがとう、ね』

③ 友情テーマ 最恐賞『【閲覧注意】電車で着物の女性にぶつかった結果 #shorts』

死者と話せる謎の機械「天国フォン」を巡る本作に対し、はやせ氏は「呪物収集家として天国フォンが本当に欲しい。日常の電車から異界へ引きずり込まれる都市伝説的な要素が見事に繋ぎ合わされている」と大興奮。平川氏も「最初は感動的な話かと思いきや、急に不穏な空気に変わり、最後はファンタジー要素をホラーにうまく落とし込んでいる」とその急展開の妙を語りました。 竹中貞人監督は、設定について「藤子・F・不二雄先生の短編のような世界観を目指した。友達だと思っていた存在が、実はワイヤーを切った犯人かもしれないという、短い尺の中で様々な考察ができるように設計した」と解説。友情という難しいテーマを、SNSでバズる縦型ホラーのテンポ感で見事に表現した技量に、高い評価が集まりました。

『【閲覧注意】電車で着物の女性にぶつかった結果 #shorts』

④ 仕事テーマ 最恐賞『心霊写真屋』

映像の余白を使った恐怖演出が光る本作。片山監督は「最後、あえて見せすぎずに振り返ったところで終わる引き算の美学が、想像力をかき立てて素晴らしい。異変の前にコーヒーカップがわずかに動くような細かい演出も効いている」と絶賛。平川氏も「影やカップがじわじわと寄ってくる緊張感に、心拍数が上がりっぱなしだった」と振り返りました。 川中玄貴監督から「締め切りの3日前に、自宅で撮影から編集まで完全に一人で行った」という驚異のスケジュールが明かされると、ゲスト陣は驚愕。数年前にメモしていた「テレビ番組用にPhotoshopで心霊写真を作る裏方の仕事」というアイデアをベースに一気に作り上げたというエピソードに対し、はやせ氏は「ゼロからこのクオリティを生み出すアイデアが凄い。次回作も楽しみ」と、その卓越したクリエイティビティに感銘を受けていました。

★ 特別最恐賞（共通テーマ：「日常に潜む恐怖」）『STILL』、『ずっとそこにいる』

最後に、特別最恐賞として2作品が同時選出。まず『STILL』について、選考に関わった四宮氏は「目線と息遣いだけで恐怖心を煽る没入感が圧倒的。観終わった後も『なぜこうなったのか』と考え続けさせる、ホラーとして一番強い力を持った作品」と講評。代役で登壇したプロデューサーの石井氏からは、平林勇監督が「とにかく明るくてホラーっぽくない、アート的なアプローチのホラーを目指した」という意図が語られました。もう一方の受賞作『ずっとそこにいる』の春名星監督が登壇すると、はやせ氏は「明るく楽しい家族団らんの裏で、下を覗くと同時に恐怖が広がっている。日常との落差の描き方が、良い意味でむちゃくちゃ性格が悪い（笑）」と、独自の不穏な演出を絶賛。春名監督が「実際の未解決事件をベースに、ワンロケーションの心霊スポット（橋）でドローンを使用して撮影した。今後もホラーしか撮る気はない」と語ると、はやせ氏も「事故物件に住む自分としても大好物の世界観。雰囲気が自分に似ている」と共感し、会場は独特の熱気に包まれました。

『心霊写真屋』

会場では、惜しくも僅差で受賞には至らなかったものの、優秀だった作品として、朝比奈けい監督『タイムリープ』、平岡亜紀監督『夢』、カナタク監督『オトモダチ』、永田佳大監督『Imago』の4作品も上映されました。

『STILL』

『ずっとそこにいる』

イベントの締めくくり、そして「最震賞 supported by CRG」の行方はーー

ハイレベルな4つの優秀作品の上映を終え、ゲスト陣による総括が行われました。 片山監督は「ホラーにおいてアイデアと、それを出すタイミング（構成）がいかに重要かを再認識しました。
特に『オトモダチ』は設定が秀逸で、あの子供がどう成長していくのか長編や続編として続きが観てみたい」と、クリエイターの未来に期待を寄せました。

平川氏は「監督それぞれの強いこだわりや裏話を聞いて、自分もホラー作品への出演に挑戦してみたいという気持ちが湧いた」と笑顔で語りました。 はやせ氏は「AI技術の活用や新しい映像構成など、これからのホラー映画の未来が明るいと感じられるコンテストだった」と語り、仕掛け人である四宮氏も「1つのアイデアと熱量があれば、縦型というフォーマットを通じて誰でも世界に発信できる。縦型ホラーという新たなジャンルの可能性を確信する一夜になった」と締めくくりました。

さらに、イベントのクライマックスでは、はやせやすひろ氏が「いわく付きの呪物」を実際にステージへ持参して紹介する恒例のコーナーが行われ、会場からはこの日一番の（？）悲鳴と笑いが沸き起こりました 。

今回選出された6名の受賞者は、来る6月10日（水）にLINE CUBE SHIBUYAにて開催される映画祭のメインイベント「アワードセレモニー」に招待されます 。そこで、この6作品の中から最も恐怖をまとった究極の1作に贈られるプレミアムな賞、「最震賞 supported by CRG」の最終結果が発表される予定です 。

縦型ショートフィルムという新たなフォーマットが切り拓く、ホラー＆サスペンスの未来と可能性を強く予感させる一夜となりました 。

〈開催概要〉
■日時：2026年6月7日（日）19:30 – 21:20
■会場：WITH HARAJUKU HALL
■内容：各賞の発表および上映、トークイベント
■ゲスト：はやせやすひろ（都市ボーイズ／呪物怪異蒐集家）、片山慎三（映画監督）、平川結月（俳優）、
四宮隆史（株式会社CRG代表取締役）
URL: https://www.shortshorts.org/2026/event/horror/

【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2026 概要】

■開催期間：
5月25日（月）オープニングセレモニー
5月26日（火）～6月9日（火）東京会場
6月10日（水）アワードセレモニー
※オンライン会場は 5月25日（月）～6月30日（火）

■上映会場：MoN Takanawa: The Museum of Narratives
赤坂インターシティコンファレンス、ユーロライブ、WITH HARAJUKU HALL、
LIFORK HARAJUKUほか

■チケット：
【前売り】一般 1,500円 、大学生 /U29 /シニア/ 障がい者割引 1,200円
小学生・中学生・高校生 1,000円 小学生未満 無料
【当日券】一般 1,800円、大学生 /U29/シニア/ 障がい者割引 1,500円
小学生・中学生・高校生 1,300円 小学生未満 無料
【パスポート】一般 7,000円、学生 /シニア/ 障がい者割引 5,500円
【オンライン会場】2,500円（日本国内）/ 15米ドル（日本国外）

■一般からのお問い合わせ先：info@shortshorts.org
■オフィシャルサイト： **https://www.shortshorts.org/2026**
■主催：ショートショート実行委員会 / ショートショート アジア実行委員会

【本件に関するお問い合わせ先】 ショートショート実行委員会 担当：田中 E-mail press@shortshorts.org

【本資料に関する画像については、下記よりダウンロードいただけます】
https://drive.google.com/drive/folders/1YEqcaOM7rk6ZHd7gf2m3MUaRx4nKm-wH?usp=sharing